

## 20 『日本警見記』の作品とその創作過程

〈4コマ〉

よこやまじゅんこ  
横山純子

中村元記念館東洋思想文化研究所研究員  
島根県歯科技術専門学校  
非常勤講師



ラフカディオ・ハーン (Lafcadio Hearn, 1850-1904)は、1890年4月4日に来日し、来日第一作として1894年に『日本警見記』(*Glimpses of Unfamiliar Japan*)を出版しました。この講座では『日本警見記』に関する手紙、メモ帳、原稿、記事を辿り、またハーンのアメリカ時代の新聞記者としての経験等を踏まえながら、その創作過程を総合的に探りたいと思います。そしてハーンの異文化との遭遇がどのように作品化され、それを通して彼の表現がどのように変化していったのか、さらにそれが彼の霊的世界にどのように結晶化されていったのかを複合的に考察したいと思います。

1. ラフカディオ・ハーンの来日前後
2. 「江の島行脚」を中心に
3. 「神々の国の首都」を中心に
4. 「伯耆から隠岐へ」を中心に

参考資料： 横山純子博士（学術）論文『訪日後のハーンの創作過程と技法—『日本警見記』を中心に』

《主要業績》

- ① 「ハーンの「焼津にて」にみる海体験と霊的世界の深淵」  
『イギリス イメージ横断—表象と文学』(春風社、2011)
- ② 「『神々の国の首都』創作過程の一考察—取材ノートを読む」  
『ユリイカ』第27巻4号(青土社、1995)
- ③ 「ラフカディオ・ハーンの『チタ』における海の意味」  
『欧米文化研究』第11号(広島大学、2004)

[日時] 9月23日(土) 13:30~15:00, 15:20~16:50, 9月24日(日) 10:30~12:00, 13:30~15:00

[テキスト] レジュメ配布

[受講料] 4,800円